

基礎分野

基礎分野は、幅広い人間理解と科学的思考力を高め、他者への関心と学習への主体的行動を獲得する土台となる分野である。

専門基礎分野と専門分野および統合分野を学習するために必要な知識・技術・態度を養い、また学生が一人の人間として成長していく基礎を形成する分野として位置づける。

専門基礎分野

看護実践においては、人間のからだところの構造やはたらき、疾病の成り立ちと症状のメカニズム、治療や回復過程について理解することが不可欠である。また、人々の健康な生活を支えるための保健医療福祉の制度やシステムについての理解も必要である。

そこで、専門基礎分野は人間を身体的・心理的・社会的側面から捉えるための知識を習得し、人間が健康な暮らしを営むための保健医療福祉制度やシステムについて理解することをねらいとする。また、専門分野および統合分野を学習するための基礎的知識を学習する分野として位置づける。

酒田市立酒田看護専門学校

シラバス

専門分野

専門分野は、看護について体系的・系統的に習得できるよう、「基礎看護学」「地域・在宅看護論」「成人看護学」「老年看護学」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」の7領域および「看護の統合と実践」で構成する。各領域においては領域の特徴や看護の対象、方法について学習し学びの統合を図る。さらに、領域を横断する学習形態により包括的かつ継続的に看護を学び、対象の健康問題や生活上の課題を抱える対象を理解し、対象にあった適切な援助を行うための実践力を身につけることをねらいとした「領域横断授業」を7科目設ける。

この専門分野は、基礎分野・専門基礎分野で習得した知識・技術・態度を活用しながら、あらゆる発達段階、あらゆる健康状態にある対象に対する看護が実践できる力を養う分野として位置づける。

看護の統合と実践

構築の考え方とねらい

「看護の統合と実践」は基礎分野、専門基礎分野および専門分野の 7 領域で学習した知識や技術を統合し、卒業後、看護の現場にスムーズに適応できるよう 3 年間の総まとめとして、カリキュラムの最終段階に位置づける。

わが国は、医療の高度化や生活水準の向上により平均寿命が延伸した一方、少子化が進んでおり社会保障制度にも大きな影響を及ぼしている。また、高齢化の伸展に伴う地域包括ケアシステムの推進により、看護のニーズは多様化・複雑化している。このような中で看護の専門職として責務を果たしていくためには、生命の尊厳を守り、対象者の権利を擁護する高い倫理観や、専門的な知識に基づく判断力と看護の実践力を身につけることは必須である。

このような考え方に基づき「看護の統合と実践」は、あらゆる医療・看護活動の場や人々の多様な複雑なニーズに合った看護が実践でき、また保健医療福祉チームの一員として他の専門職と連携・協働できる能力を習得することをねらいとし、下記の7つの科目により構成する。

- ①国際看護
- ②災害看護
- ③看護管理
- ④医療安全
- ⑤専門職連携演習
- ⑥看護の統合と実践演習
- ⑦看護の統合と実践実習

「看護の統合と実践」は 3 年間の総まとめとしての領域であるため、既習の知識・技術を駆使しながら統合し、対象を多角的に捉え個々のニーズに合った看護が実践できるようにすることを最大のねらいとしている。そのため、本領域では新しい知識や技術の獲得にとどまらず、実際の現場や状況を想定したシナリオシミュレーターによる演習を強化し、既習の知識・技術の統合ができるようアクティブラーニングを中心とした授業を組み立てる。

「看護の統合と実践」は、学生が 3 年間の学習で習得した知識・技術に自信が持て、卒業後も看護の専門職業人として主体的に学びを継続する姿勢が持てるようにする領域である。